

2017
7月

月次 39レター

毎月発行するお客さまへのお知らせレターです

第155号-①【基準日 2017年6月30日】



🌸 社長メッセージ



フィデューシャリー・デューティー宣言

ありがとう投信株式会社

代表取締役社長 長谷 俊介



皆さま、いつもありがとう投信をご愛顧いただきまして誠にありがとうございます。

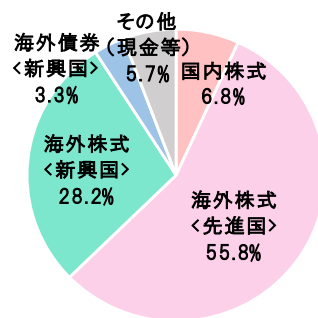
今年も暑さの厳しい季節がやってまいりましたが、いかがお過ごしでしょうか？

先月、米国では予定通り利上げが行われ、金融緩和の出口に向けて、着実に政策を進めております。また、欧州においても景気や物価の回復傾向を見定めながら、今年後半から金融緩和の縮小に着手する議論が始まってきております。その一方で、日本においては日銀の金融緩和政策の目標である物価上昇率2%達成は依然として遠く、国債買い入れやETF購入を今後も継続していくという方針で、金融緩和の出口は未だ見えません。金融緩和の出口に向かい始めた欧米に日本は取り残されて始めている状況であります。

現在、日経平均株価は2万円台前後をキープする水準で底堅いと言われておりますが、日銀の年間6兆円におよぶETF購入による下支え効果が大きいと弊社では考えております。下駄を履いた官製相場であり、ETF購入を続けているうちはいいのですが、今後、ETF買付の縮小や買付を終了した場合の下落リスクについては十分に警戒しておく必要があると考えております。

次ページの図1のように、日銀は既に日本株式ETF残高の3分の2(約66%)を保有している状況であり、また、日経新聞によれば、日銀とGPIF(年金積立金管理運用独立行政法人)を合わせた公的マネーは東証1部上場企業の4社に1社の実質的な筆頭株主になっているそうで、流動性の低下によるボラティリティの上昇や株式持ち合いによる弊害などの副作用も出て来ており、いつまで続けられるのか懸念されております。

また、図2のように日銀の国債買い入れ残高も4月末時点で既に約424兆円で約4割に達しております。既に株価や為替相場は反応しなくなっていますが、年間80兆円規模の買い入れをいつまで続けられるのか、今後、果たして国債購入を止めることはできるのか、市場は不安視しております。



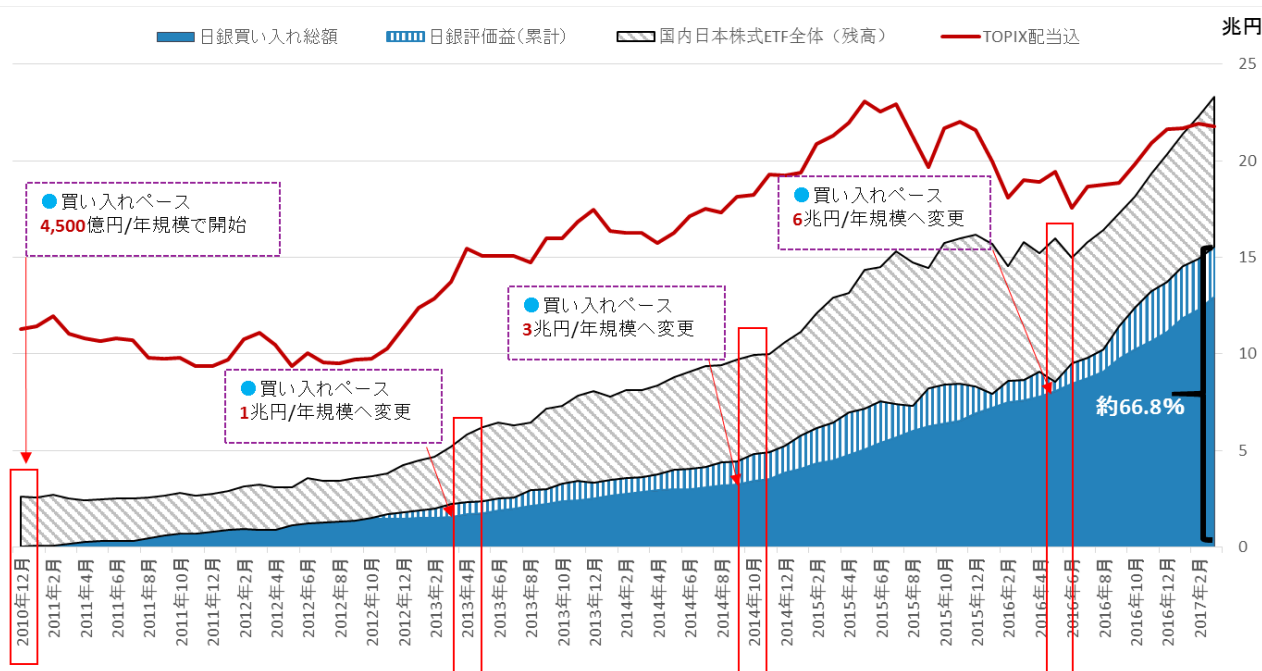
5月末時点

そのような中、皆さまの「ありがとうファンド」は、国際分散投資でリスク分散しており、現在約9割を外国資産に投資しており、日本株式の割合は約6%です。日本株式マーケットの影響を直接ほとんど受けないポートフォリオになっており、将来の下落リスクに対する備えは出来ておりますのでご安心いただければと思います。

ありがとう投信株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第304号 一般社団法人投資信託協会会員

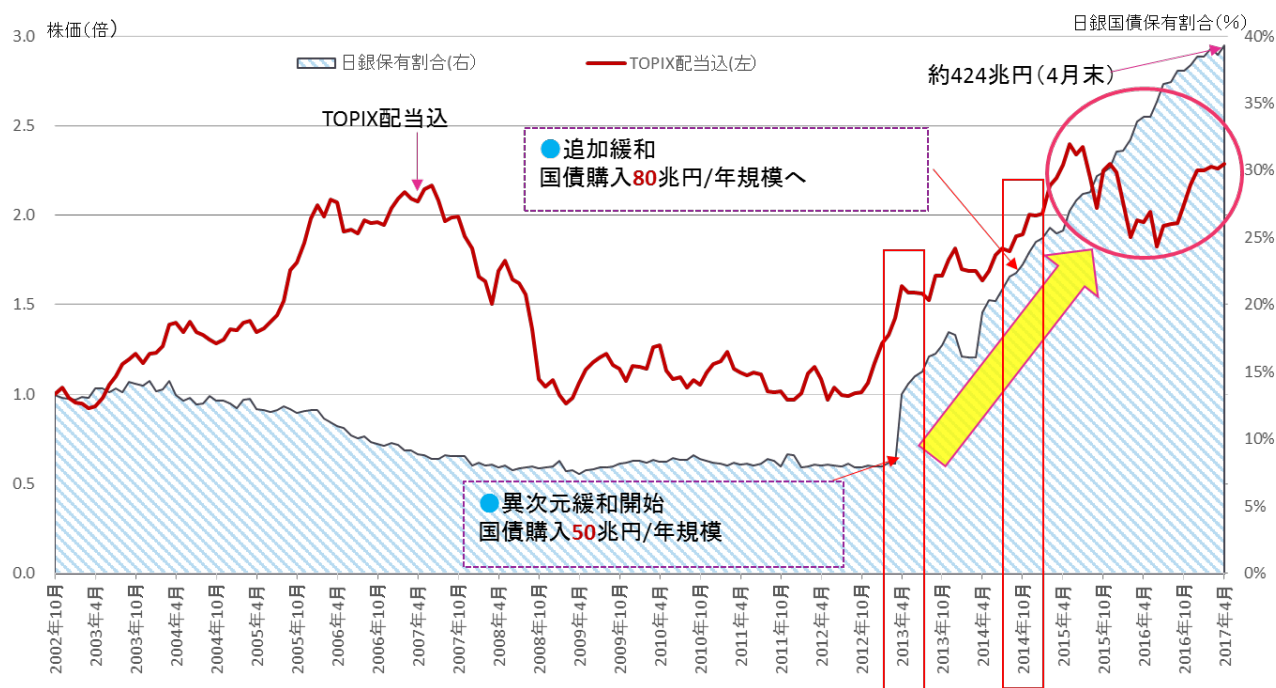
このレポートはありがとうファンドの運用状況等を開示するための情報提供を目的として、ありがとう投信株式会社が作成したレポートです。信頼性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。投資信託の取得を希望される方は、必ず目論見書の内容をご確認の上、ご自身の判断でお申し込みください。

図1: 日銀の日本株式ETF買い入れ残高とTOPIX配当込の推移



出所:ファクトセット、ありがとう投信計算(概算値)・作成

図2: 日銀の国債保有比率とTOPIX配当込の推移



出所:ファクトセット、株価は2002年10月末を1として指数化、ありがとう投信作成

ありがとう投信株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第304号 一般社団法人投資信託協会会員

このレポートはありがとうファンドの運用状況等を開示するための情報提供を目的として、ありがとう投信株式会社が作成したレポートです。信頼性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。投資信託の取得を希望される方は、必ず目論見書の内容をご確認の上、ご自身の判断でお申し込みください。

さて、弊社では先月6月29日に「フィデューシャリー・デューティー宣言」を弊社のWEBサイトに公表(<https://www.39asset.co.jp/company/fiduciary.html>)いたしました。これは金融庁が3月末に公表した「顧客本位の業務運営に関する原則」について、弊社として原則を受け入れ採択し、その取組方針を公表したものであります。

弊社は、独立系の資産運用会社として、2004年3月9日に5人の税理士・公認会計士によって設立され、独立系資産運用会社としての強みを生かして親会社・系列の意向に縛られることなく、お客さまの最善の利益の追求を目指し、最適な投資先を厳選して運用しております。また、顧客本位の業務運営に徹するため、創業以来一貫して販売会社は通さずに完全直販スタイルにより、お客さまの資産運用を一生涯サポートするべく「ありがとうファンド」の運用・販売を行って参りました。

今後もお客さまの最善の利益の追求や利益相反の適切な管理、手数料等の明確化など、お客さまから資産運用の委託を受けたプロとして当然であるべきことを、これからも愚直に実践していき資産運用業界の健全な発展にも貢献して参ります。

また、弊社は「ありがとうファンド」を販売・運用するだけでなく、お客さまの金融リテラシーの向上や幅広いニーズに答えていくために、投資教育や啓蒙活動としてのセミナーや勉強会などの開催をしたり、資産運用だけではなく相続・税金・法律問題などお客さまの様々な問題解決のお手伝いもさせていただく、資産運用アドバイザー・サービスプロバイダも目指して参る所存です。

弊社はこれからもお客様のご期待に応えらえるように役職員一同精進して参りますので、引き続きご愛顧の程何卒よろしくお願い申し上げます。

次のページに「フィデューシャリー・デューティー宣言」を掲載いたしましたのでご覧頂ければ幸いです。



ありがとう投信株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第304号 一般社団法人投資信託協会会員

このレポートはありがとうファンドの運用状況等を開示するための情報提供を目的として、ありがとう投信株式会社が作成したレポートです。信頼性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。投資信託の取得を希望される方は、必ず目論見書の内容をご確認の上、ご自身の判断でお申し込みください。

《 フィデューシャリー・デューティー宣言 》

【お客さまの最善の利益の追求】

弊社創業の目的である「長期投資でお客さまの資産形成のお手伝いをして、将来不安を解消する」ことを通じて、「ありがとうございます」をお客さまに、お客さまからは「ありがとう」という言葉を頂ける信頼関係を長い時間をかけて築いていくことを目指していくことは、お客さまの最善の利益の追求に他ならないと考えております。

したがって、弊社の経営判断および社員の行動指針は常にお客さまの最善の利益を追求していくことを原則とするものであります。

【利益相反の適切な管理】

弊社は、独立系資産運用会社としての強みを生かして親会社・系列の意向に縛られることなく、お客さまの最善の利益の追求を目指し、最適な投資先を厳選して運用しております。

弊社は「ありがとうファンド」1本のみを運用して、直販形式を主体として販売手数料を無料(ノーロード)とすることで、構造的にお客さまと利益相反が起きないように努めております。また、投資先パートナーの選定においても、対象のファンドのパフォーマンスを定量的・定性的に評価分析して、選定及び見直し入れ替えを実施しており、利益相反が起るようなことがないように投資先との間で特別な関係を持つことは致しません。

【手数料等の明確化】

弊社は、お客さまに資産運用サービスを安定的に継続して提供するために、運用資産規模に応じた合理的な信託報酬率を定めております。

将来的に純資産残高が増加した場合や業務改善や生産性の向上などでコスト低減が実現できた場合は、信託報酬率の引き下げ見直しも検討して参ります。

また、販売手数料についてはお客さまの最善の利益の追求及び利益相反防止の観点から徴収いたしません。

【重要な情報のわかりやすい提供】

弊社は、お客さまにご投資いただくことでご負担いただく費用やファンドの特徴、リスク・リターンなどの重要な情報について法令で定められている開示書類だけでなく、弊社のWEBサイトや月次レポート、セミナー、運用報告会、勉強会等でもわかりやすくお伝えして参ります。また、フリーコールのご相談窓口を設けて直接ご相談できる態勢を整えたり、弊社にご来社いただいての個別相談会も随時開催しております。

【お客さまにふさわしいサービスの提供】

弊社では、お客さまの資産運用を一生涯サポートできる長期、国際分散、継続投資に適したファンドを提供しております。現役世代やジュニア世代の資産形成期の方には「定期積立サービス」を、資産活用期のシニア世代の方には「定期換金サービス」を提供してお客さまの資産運用を一生涯サポートしております。

さらに、税理士・公認会計士が立ち上げた独立系資産運用会社としてのネットワークを生かして、資産運用だけではなく相続・税金・法律問題などお客さまの様々な問題解決のお手伝いをさせていただく39コンシェルジュサービスも提供しております。

【従業員に対する適切な動機付けの仕組み等】

弊社の目標である「お客さまの資産運用を一生涯サポートします」を実現できるように、全役職員が価値観を共有して愚直に不断の努力を続けて参ります。

人事評価・人材育成においても、業務遂行に必要な専門性があるかどうかだけでなく、お客さまの最善の利益を追求する弊社の価値観を共有できているかどうか大切な観点として評価して参ります。

遵守状況については、毎年の内部監査において確認した上で、結果を取締役会に定期的に報告いたします。



よくわかる資産運用ABC



【はじめてシリーズ第1回】 預貯金と投資の違いって何？



今回は、はじめてシリーズとして投資に興味があるけどよくわからないと思っている方に向けて、第1回目として皆さんにとって一番身近な預貯金と投資の違いについて解説させていただきます。

投資経験のない方、預貯金しかしたことがない方にとって、投資について聞くと、興味はあるけど言葉は聞いたことがあるけど詳しくは知らなかったり、難しいイメージやリスクがあって怖いイメージを持たれていたり、またはいくら損した、いくら儲かったというギャンブルのようなイメージを持たれていたりします。

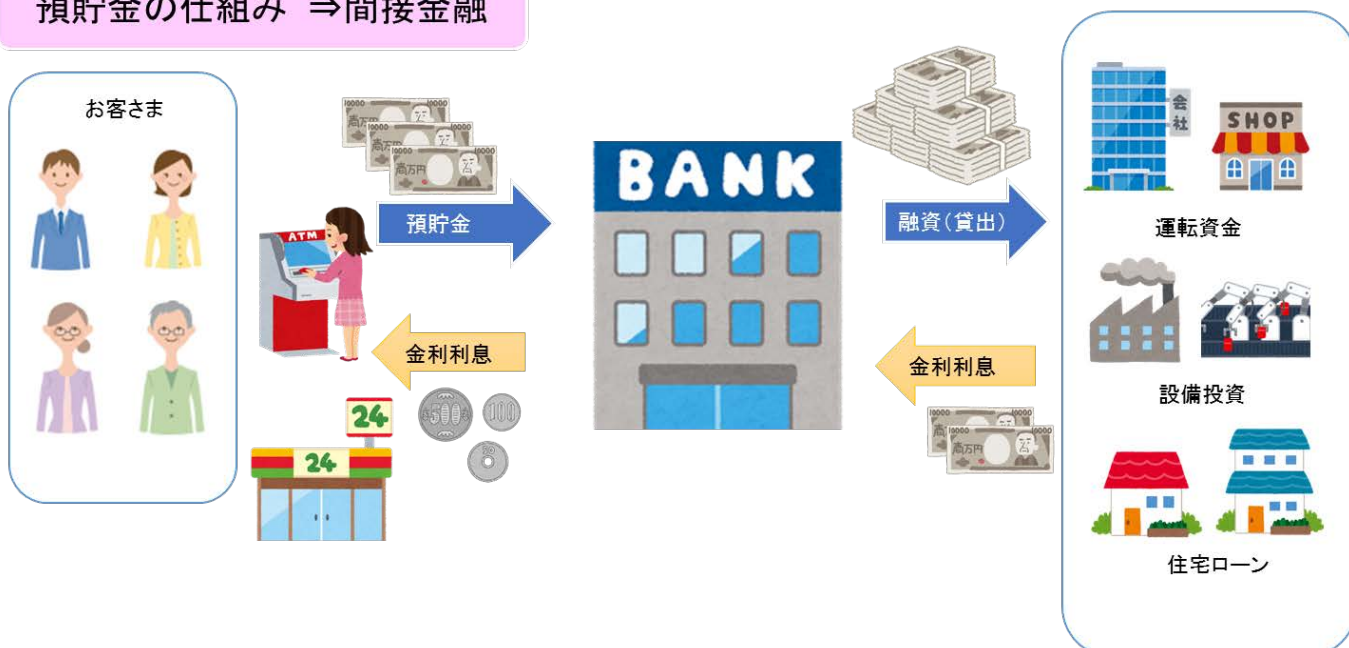
しかしながら、よくわからないという方でも、金融機関の広告宣伝等で目にする機会があるためか、例えば、FXや投資信託、ファンド、NISA、毎月分配、USリート、ドル年金、iDeCo、ファンドラップなどの金融商品や制度の名前についてはご存知であったりします。

そういった知識はあっても、投資や金融商品、資産運用についての正しい知識がないため、ご自身でどれが自分にあっているのか比較検討したり、判断したりすることができないため購入をためらってしまったり、よくわからないまま購入してしまう場合が多いようです。

金融商品は世の中に沢山あって、さらに今後も沢山新しい商品が出てくるでしょうが、投資や資産運用に関する基本的な知識と考え方を理解していれば、いちいち覚えなくても大きなカテゴリで分類することでその特徴や性質を把握することができるようになります、自分にとって必要であるかないか判断できるようになります。

それでは、まずは預貯金の仕組みについて見ていきましょう。以下の図をご覧ください。

預貯金の仕組み ⇒ 間接金融



ありがとう投信株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第304号 一般社団法人投資信託協会会員

このレポートはありがとうファンドの運用状況等を開示するための情報提供を目的として、ありがとう投信株式会社が作成したレポートです。信頼性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。投資信託の取得を希望される方は、必ず目論見書の内容をご確認の上、ご自身の判断でお申し込みください。

皆さんご存知のように、預貯金は銀行に口座開設をしてお金を預けておいて、現金が必要になった場合に銀行やコンビニのATMでお金を引き出したりすると思います。

また、銀行に預金していると利息がつきます。現在は日銀がマイナス金利政策をしていますので、大手メガバンクの普通預金金利は年率 0.001%、定期預金金利が 0.01%となっており、ほんのわずかしき利息はつきません。(例えば、100 万円を 1 年間預けていても、それぞれ利息が税引き前で 10 円、100 円しか付きません)

預貯金とは、皆さんが銀行にお金を預けることですが、これを銀行側から見ると皆さんからお金を借りていることになります。皆さんが頂く利息というのは、銀行に金利 0.001%でお金を貸した対価にあたるのです。

つまり、「預貯金をする事」＝「銀行にお金を貸す事」の関係になっているのです。

次の図のように銀行の財務諸表である貸借対照表(B/S)上では、私たちの預金は負債の欄に計上されているのがお分かりいただけると思います。

お金を借りたら金利分の利息の支払いと元本返済義務があることは、皆さんご存知だと思いますが、預金もそれと同様の位置づけになっているのです。

銀行の貸借対照表(B/S)

資産	負債
貸出金 (融資残高)	預金 (お客さまのお金)
	資本

銀行では預金は負債として取り扱い
(いつでも払い戻しに応じる義務がある)

では、お金を借りた銀行はどうしているのかというと、そのまま持っていて利息を払えないので皆さんから集めたお金をまとめて企業に融資したり、個人に住宅ローンとして貸し出したりします。この時、預金金利より高い金利で貸し出すことで利ザヤを稼ぐことになります。これが銀行の収益となります。

しかし、最近は預金は集まるけれども優良な貸出先や資金需要がなくてどこの銀行も困っているという話を聞きます。

ところで、皆さんは預貯金は元本保証で安全だと思っているのではないのでしょうか。

実際にその通りで仮に銀行が経営破たんしたとしても元本 1000 万円とその利息までは預金保険機構が保証してくれるので心配はいりません。なぜ保証されるのかというと銀行があらかじめ万が一に備えて保険料を支払って保険をかけているからです。

皆さんが預けたお金は銀行を通じて
企業や個人に貸し出されます

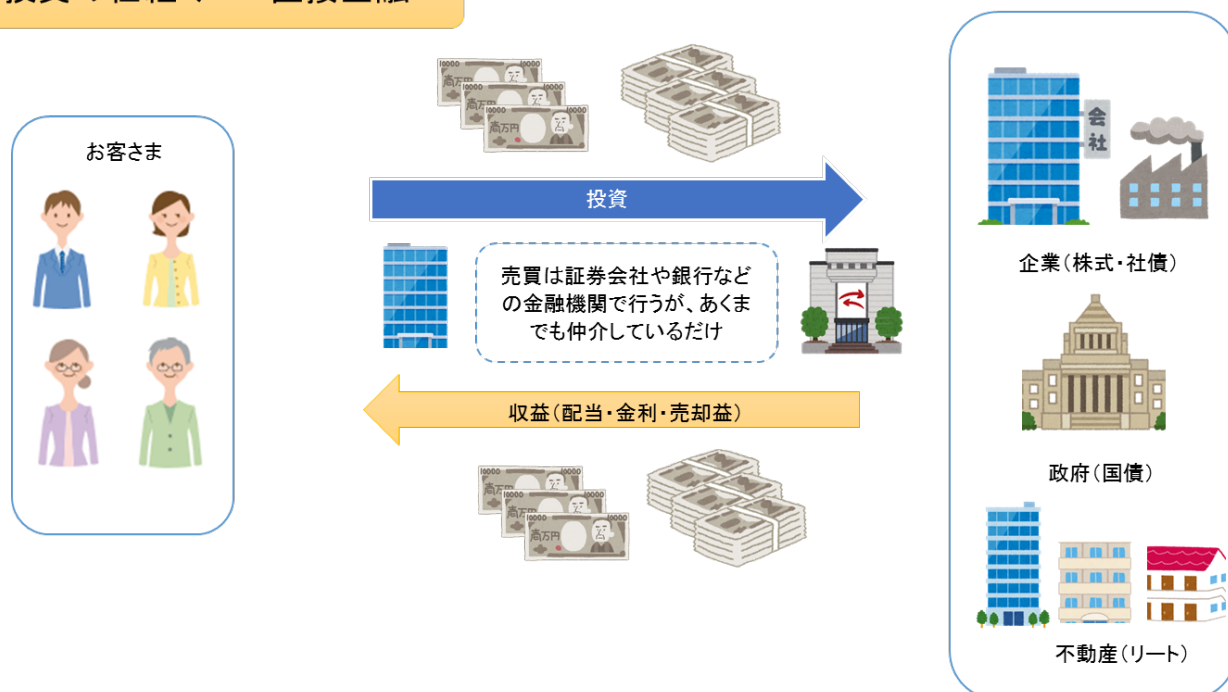
預金金利よりも高い金利で貸し出すので
その利ザヤ分が銀行の収益になります
一方、融資して返済されないリスクも銀行が
負っています

預貯金の場合は、預金者が直接リスクを負わず
銀行がリスクを負担する仕組み

このように預貯金というのは、銀行が間に入った間接金融の仕組みであり、融資をして焦げ付いたり、住宅ローンの返済が滞って返済されないリスクというのは銀行が負っているのです。つまり、銀行は融資が上手くいったときの収益(リターン)も融資が失敗したときの損失(リスク)も皆さんに代わって負担してくれているのです。

それでは次に、投資の仕組みについて見ていきたいと思います。以下の図をご覧ください。

投資の仕組み ⇒ 直接金融



投資は、預貯金の間接金融に対して直接金融と呼ばれています。銀行を介さずに、皆さんからの投資資金が直接、企業(株式・債券)や政府(国債)、不動産(リート)などに向かいます。また、投資収益も同様にダイレクトに皆さんに入る仕組みとなっています。

したがって、投資の場合は預貯金の場合と違い、投資が上手かった場合のリターンについては皆さんが直接享受することになる一方で、投資先の業績リスクや価格変動のリスクについても皆さんが直接負うことになります。

投資の場合はお客さまが直接、株式や債券の形で企業などに投資します
投資先の業績が良かったら配当が出たり、金利収入を受け取れますが、業績が悪くなったら配当が出なかったり投資した資金が戻ってこない可能性があります



投資の場合は、お客さまが直接リターンを享受するとともにリスクも直接負担する仕組み

個人商店から大企業の経営までビジネスにおいてリスクは付きものです。預貯金と投資の決定的な違いはリスクを直接負担するか間接的に負担するかです。そして、リスクの負担の大きさとリターンの大きさも変わってくるようになります。

預貯金・・・ 間接金融 ⇒リスクを間接的に負担(リスク小)
⇒リターンも小さくなってしまう

投 資・・・ 直接金融 ⇒リスクを直接的に負担(リスク大)
⇒リターンも大きくなる可能性あり

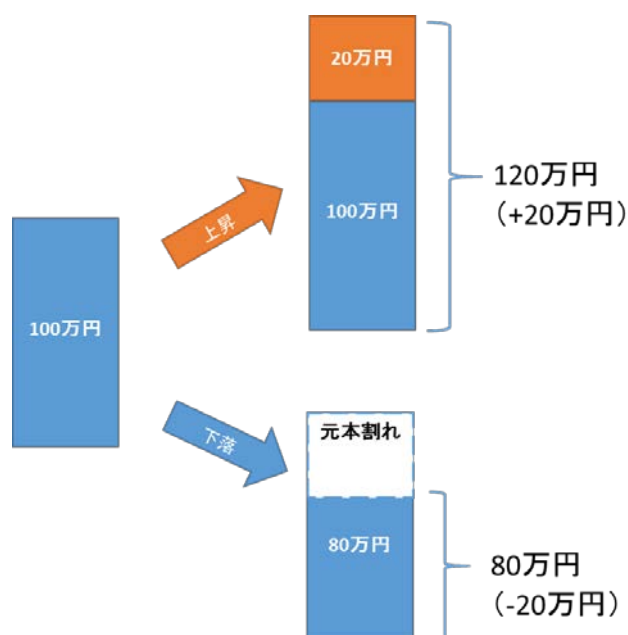
このようにそもそも投資というのは、お金を必要としている人に直接資金を融通してあげて、その対価として配当や金利収入などを得るというものであり、経済活動やビジネスを円滑にしていくなかではなくてはならないものです。よく誤解されている投資はギャンブルであるという考えとは違うものであることがお分かりいただけると思います。

具体的に投資する場合ですが、直接企業に資金を融通することは簡単にはできませんので、株式や債券、投資信託などの証券や金融商品を通じて行うことになります。それを仲介する役割を果たしているのが証券会社や銀行などの金融機関になります。

ですので、直接金融と言っても皆さんから見れば、銀行に預金するか、銀行や証券会社などの金融機関で金融商品を購入するかくらいの違いしか感じられないかもしれませんが、実は両者はリスク負担の部分で大きく異なっているのです。

ここで多くの方が投資に抵抗を感じて、ちょっと怖くて、難しい、馴染めないと感じる一番の要因は何かと考えると、預貯金との大きな違いとして価格が変動することにあるのではないかと考えます。預貯金であれば100万円を預けたら、自分で引き出して使わない限り、残高はずっと100万円ですが、投資の場合は、例えば、100万円で購入したものが120万円になったり、80万円になったりします。

そのため、どうしても価格推移ばかりに捉われてしまって、本来投資とはどういうものだったのかという基本を忘れてしまい、その価格変動に一喜一憂してしまうことになってしまうのではないかと思います。そして、儲かった損したとギャンブルのように考えてしまうのかもしれない。



業績が伸びている会社、利益を毎年増やしている会社、売上も利益もどんどん伸びて成長している会社は企業価値そのものが、投資時点よりも向上していますので、それに合わせて価格も上昇していきますし、反対に業績がどんどん悪化して赤字になり倒産の危険性がある会社は、投資時点よりも企業価値が低下していますので、価格も下落していきます。リスクを減らすための方法は非常にシンプルで、成長していく企業、安定的に利益を出している企業を選別して投資することで、これは投資で成功していく秘訣でもあります。



以上、預貯金と投資の違いについて簡単に見てきましたがご理解いただけましたでしょうか？

預貯金と投資の違いは、リスクを誰が負担するのかです。そして、それによって投資収益であるリターンも変わってくることになるのです。

今回は投資をさらに深掘して、株式と債券の違いについて取り上げたいと思いますのでご期待下さい！

積立投資のススメ！

長期投資には、コツコツと分散しながら長期に渡って購入する「定期積立サービス」がおすすめです♪

「定期積立サービス」とは・・・毎月決まった日にお客様が決めた金額を、自動で購入してお客様の資産をコツコツ積み立てていくやり方です。引落とし手数料も無料♪お忙しい方にもおすすめの投資方法です。

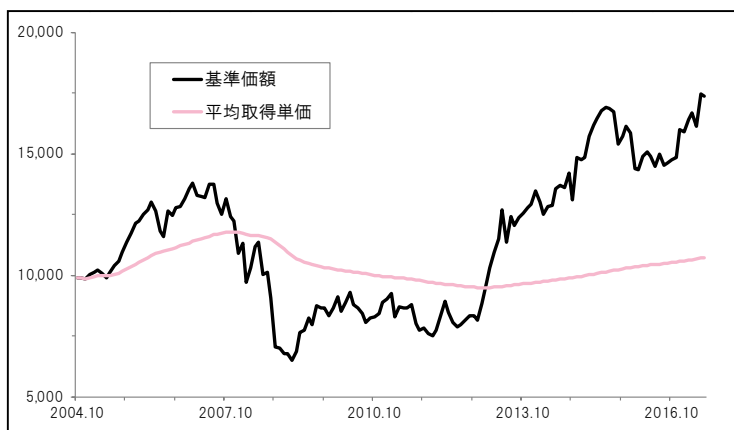


①『無理なく続けられる』

お手元にまとまった資金がなくても、毎月少しずつ積み立てることで大きな資産へとつながっていきます。貯金感覚で続けていきながら、複利効果でリターンチャンスとなります。

②『リスクを分散』

定額での購入で基準価額が高い時に少なく、安い時に多く投資することができます(ドル・コスト平均法)。相場がよい時もよい時も投資を続けることで、平均買付単価を低く抑える方法です。



③『時間分散』

タイミングを分けることで、リスクを分散することができます。時間を味方につけることで、長期でじっくり投資を続けることができます。

右の表は過去の実績として、ありがとうファンドを10,000円ずつ1年、3年、5年、12年と定期で積み立てた場合の実際の平均取得単価と損益となります。続けていくほど利益がでているのがわかるかと思います。

期間	平均取得単価	損益
1年	15,739円	12.46%
3年	15,349円	15.32%
5年	13,169円	34.41%
初回(2004年10月)から	10,722円	65.09%

2017年6月30日現在(基準価額:17,701円)

投資信託をいつ買えばよいのか？とのお客様の声が多いですが、投資信託は、タイミングではなく、時間での分散が効果的です。長期で常にタイミングを計ることはとても難しく、かなりの労力を必要とし、それでも確実にいいタイミングで買える保証はありません。

それよりも、ゆっくりと長い時間をかけて、コツコツ投資していくほうがはるかに続けやすく買付単価を平均化されることで、分散の効果が得られます。投資先パートナーであるキャピタルでも投資の心得として“Time, not timing, is what matters”と掲げており時間分散による長期投資の効果の重要性を語っています。



タイミングを見計らうのではなく、時間を味方につけていきましょう！

※上記表は毎月同一金額を継続して積立した場合の平均取得単価となります。
※積立による購入は将来の収益を保証、基準価額下落時における損失を防止するものではありません。
※計算過程で出る端数の処理等、損益比率計算過程において簡略化した計算式を用いています。

ありがとう投信株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第304号 一般社団法人投資信託協会会員

このレポートはありがとうファンドの運用状況等を開示するための情報提供を目的として、ありがとう投信株式会社が作成したレポートです。信頼性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。投資信託の取得を希望される方は、必ず目録見書の内容をご確認の上、ご自身の判断でお申し込みください。

セミナーのお知らせ

参加人数に限りがございます。お申し込みは弊社 HP まで♪ (<https://www.39asset.co.jp/html/seminar/index.htm>)

セミナータイトル	開催日	開催地	時間	講師
【平日】よくわかる投信の選び方・見直し方 ～こんなファンドは買ってはいけない！～	7月7日 (金)	東京	19:00～ 20:30	長谷 俊介 (ありがとう投信)
よくわかる投信の確定拠出年金の活用法 ～DCのメリット・デメリット～	7月8日 (土)	東京	10:00～ 11:30	長谷 俊介 (ありがとう投信)
【平日】ありがとうファンドの魅力とは ～長期投資と国際分散投資で資産形成～	7月10日 (月)	東京	19:00～ 20:30	長谷 俊介 (ありがとう投信)
【平日】よくわかる投信の年代別活用法 ～ジュニア世代・現役世代・シニア世代～	7月11日 (火)	東京	19:00～ 20:30	長谷 俊介 (ありがとう投信)
【平日】ありがとう新規口座開設個別相談会(事前予約制)	7月12日 (水)	東京	18:30～ 19:30	長谷 俊介 (ありがとう投信)
【平日】ありがとう個別相談会(事前予約制)	7月13日 (木)	東京	18:30～ 19:30	長谷 俊介 (ありがとう投信)
【平日】ありがとうファンドの魅力とは ～使いながらふやす出口戦略～	7月14日 (金)	東京	19:00～ 20:30	長谷 俊介 (ありがとう投信)
よくわかる投信の選び方・見直し方 ～こんなファンドは買ってはいけない！～	7月15日 (土)	東京	10:00～ 11:30	長谷 俊介 (ありがとう投信)
【平日】アセットロケーションって何？有利な投資方法を学ぼう！ ～DC、NISA、課税口座を徹底比較～	7月18日 (火)	東京	19:00～ 20:30	長谷 俊介 (ありがとう投信)
【平日】ありがとうファンドの魅力とは ～長期投資と国際分散投資で資産形成～	7月19日 (水)	東京	19:00～ 20:30	長谷 俊介 (ありがとう投信)
【平日】ありがとう個別相談会(事前予約制)	7月20日 (木)	東京	18:30～ 19:30	長谷 俊介 (ありがとう投信)
新投資先ファンド紹介説明会 ～アリアンツ・グローバル・インベスターズ徹底解説！～	7月22日 (土)	名古屋	13:30～ 15:30	長谷 俊介・真木 喬敏 (ありがとう投信)
新投資先ファンド紹介説明会 ～アリアンツ・グローバル・インベスターズ徹底解説！～	7月23日 (日)	大阪	9:30～ 11:30	長谷 俊介・真木 喬敏 (ありがとう投信)
【平日】はじめての投資信託(超初心者向け)	7月25日 (火)	東京	19:00～ 20:30	長谷 俊介 (ありがとう投信)
【平日】ありがとう新規口座開設個別相談会(事前予約制)	7月26日 (水)	東京	18:30～ 19:30	長谷 俊介 (ありがとう投信)
【平日】ありがとう個別相談会(事前予約制)	7月27日 (木)	東京	18:30～ 19:30	長谷 俊介 (ありがとう投信)
新投資先ファンド紹介説明会 ～アリアンツ・グローバル・インベスターズ徹底解説！～	7月29日 (土)	東京	9:30～ 11:30	長谷 俊介・真木 喬敏 (ありがとう投信)
【平日】ありがとう新規口座開設個別相談会(事前予約制)	7月31日 (月)	東京	18:30～ 19:30	長谷 俊介 (ありがとう投信)
新投資先ファンド紹介説明会 ～アリアンツ・グローバル・インベスターズ徹底解説！～	8月6日 (日)	仙台	13:30～ 15:30	長谷 俊介・真木 喬敏 (ありがとう投信)
新投資先ファンド紹介説明会 ～アリアンツ・グローバル・インベスターズ徹底解説！～	8月19日 (土)	札幌	13:30～ 15:30	長谷 俊介・真木 喬敏 (ありがとう投信)
新投資先ファンド紹介説明会 ～アリアンツ・グローバル・インベスターズ徹底解説！～	9月9日 (土)	福岡	13:30～ 15:30	長谷 俊介・真木 喬敏 (ありがとう投信)
新投資先ファンド紹介説明会 ～アリアンツ・グローバル・インベスターズ徹底解説！～	9月10日 (日)	長崎	13:30～ 15:30	長谷 俊介・真木 喬敏 (ありがとう投信)



ありがとう投信株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第304号 一般社団法人投資信託協会会員

このレポートはありがとうファンドの運用状況等を開示するための情報提供を目的として、ありがとう投信株式会社が作成したレポートです。信頼性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。投資信託の取得を希望される方は、必ず目論見書の内容をご確認の上、ご自身の判断でお申し込みください。

平成29年度 毎月定期購入サービスのスケジュール

今後のスケジュールになります。各締切日に間に合わない場合、翌月の取扱いとなりますのでご了承ください。

	【新規で定期購入を申込】 【引き落とし口座変更】	【定期の引落し金額を変更】 【定期引落しを中止】	【引落日】	【約定日】 (ファンドの購入日)
7月分	受付終了	受付終了	7月6日(木)	7月19日(水)
8月分	受付終了	7月26日(水)	8月7日(月)	8月18日(金)
9月分	8月3日(木)	8月25日(金)	9月6日(水)	9月19日(火)
10月分	9月5日(火)	9月26日(火)	10月6日(金)	10月19日(木)

ありがとうファンド売買申込不可日のお知らせ

下記の売買申込不可日にお申込みされた場合、自動的に翌営業日以降の受付となりますのでご注意ください。

7月	4日(火)	独立記念日	ニューヨーク証券取引所休業日
8月	15日(火)	聖母被昇天祭	ルクセンブルグの銀行休業日
9月	4日(月)	労働者の日	ニューヨーク証券取引所休業日

ありがとうファンドのリスク及び手数料等について

リスク	当ファンドは、ファンドオブファンズであり、国内外の投資信託証券などの値動きのある証券に投資します。また、外貨建て投資信託証券に投資する場合には為替の変動もあります。なお、投資信託証券の組入証券の発行会社の倒産や財務状況の悪化等の影響により、価額が下落し、損失を被ることがあります。したがって、ご投資家の皆様の投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本が割り込むことがあります。ファンドに投資することに伴うリスクはおお客様のご負担となりますし、ファンドへの投資による損益も全てお客様に帰属します。また元本及び利息の保証はなく、預金保険の対象でもありません。
手数料	申込手数料・換金手数料・信託財産留保金はありません。
信託報酬	ファンド純資産総額に年 0.972%(税抜 0.9%)の率を乗じて得た額とします。 [実質的信託報酬 信託財産の純資産総額に対し年 1.6%±0.2%(概算)] ※当ファンドは他のファンドを投資対象としており、投資対象ファンドにおける所定の信託報酬を含めてお客様が実質的に負担する信託報酬を算出しております。
その他費用	当ファンドに組み入れるファンドを売買する際に発生する売買委託手数料およびこれにかかる消費税相当額などの実費が投資信託財産より控除されます。 ※実費の額は、今後組み入れファンドの追加や変更があった場合、変動してくるものであるため事前に料率、上限額等を表示することができません。

※リスク・費用等の詳細につきましては、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。目論見書のご請求は、ありがとう投信(株)カスタマーサービス部まで。【〒110-0005 東京都台東区上野 3-19-4 フリーコール 0800-888-3900】

【レポートで使用している指数の注記】 騰落率は、FACTSETよりデータを参照し、弊社にて計算しております。
TOPIXに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は東京証券取引所に帰属します。S&P500種指数(S&P500)に関する著作権、知的財産権、その他一切の権利はS&P Dow Jones Indices LLCに帰属します。MSCI Indexに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI に帰属します。

ありがとう投信株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第 304 号 一般社団法人投資信託協会会員

このレポートはありがとうファンドの運用状況等を開示するための情報提供を目的として、ありがとう投信株式会社が作成したレポートです。信頼性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。投資信託の取得を希望される方は、必ず目論見書の内容をご確認の上、ご自身の判断でお申し込みください。